

6月7日に行われた35周年記念総会の全体会の報告です

あっ 盛りだくさん！ という間に すぎた全体会

佐保夫妻の訴えに胸つまる

午後の全体会は会場をひとつにして、まず、「認知症と作業療法」と題して荏山和夫先生（佛教大学准教授）から作業療法は認知症のケアにどのように関わるのか、事例を通してわかりやすく語ってくださいました。また、今後の認知症施策の方向性として、認知症のある人へのリハビリにおいても、早期から関わるのが重要で、作業療法を通してその人の強みを生かし、その人らしい暮らしを守ることにつながると述べられました。



「認知症と作業療法」について話す荏山先生



佐保事件について話す杉山副代表理事

続いて、大阪で認知症の母親に暴力をふるい死亡させたとして、罰金刑に処せられた、佐保事件について、杉山孝博副代表理事と佐保輝之、ひかる夫妻から報告がありました。『法曹関係者の認知症に関する知識が決定的に不足している。』と強い口調で話されました。冤罪で3年間も拘留されたことは、どんなにつらく、悲しく、理不尽な思いをしたことだろうと目頭が熱くなったのは私だけではないでしょう。負けそうになる自分を支えられたのは認知症の介護がそれより過酷であったからだとのひかる氏の言葉にも胸が詰まりました。「警察、検察、裁判所などの公権力が、知識不足のまま独断的に行動した場合に今回のような冤罪が起こることが実感できる。つまり、認知症介護にかかわる人はいつ冤罪に巻き込ま



事件について語る佐保輝之さん（左）とひかるさん



熱気につつまれた満員の会場

れるかわからない」と杉山先生はまとめられ、ひかる氏は「介護の現場でも同様のことが起こる可能性があるので、気をつけてください」と涙ながらに訴えられました。

天田城介先生（中央大学文学部教授）からは、「家族の会」の35年の歴史と今後の展望について講演がありました。制度が何もない時代から始まった「家族の会」は時代の変化に伴い、新しい局面を迎えており、「追い風から向かい風へ」と表現されました。「つどい」「相談」「会報」で会員をつなぎとめられた時代から、多様化する若い介護者はネット世代であり、人と人をつなぎとめるものは希薄になっているなかで、「家族の会」への参加の敷居はとても高く感じるのではないかと話されました。

講演のあとの天田先生と「家族の会」若手理事2人による鼎談の中でも、若者はネットでつながることが得意であり、人と顔を合わせないほうがつながりやすいのではないかと。また、介護保険の改訂、新オレンジプラン、日常生活支援総合事業と認知症の人をとりまく福祉施策は次々と作られてきているが、あてがわれたものがあっていないと感じるがどうしたらいいのか等の発言もありました。



天田先生と「家族の会」理事の鼎談

午後の時間を使つての全体会は盛りだくさんであつという間に時間が過ぎました。最後に「家族の会」バンドによる演奏で「上を向いて歩こう」「ドレミの歌」を楽しんで閉会となりました。

（編集委員 竹中織恵）

会員さん からの お便り



このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

気がつけば自分の番に

愛知県・Aさん 70歳代 女

平成12年5月に86歳で実母が逝って早や15年。気がつけば今度は自分の番に…。姉と二人での介護だったので、責任のない私はとにかく母が喜んでくれることを選び、時折、家に連れて来ては見ていました。要介護5、寝たきりで7年間。脳梗塞、認知症と大変な時期もありましたが、最後の別れは二人の目前であつという間でした。

介護中はぶつかり合ったしっかり者の姉は、1年程前にアルツハイマー型認知症と診断されたので心配なところ。姉は79歳、母が脳梗塞で倒れた年です。

介護を通じ色々な友達も出来て、社会勉強をさせてもらいました。「家族の会」に助けていただき母を無事に介護させてもらい、只々感謝です。子供の居ない私は今、パソコン教室、体操などして、残された人生を大切に過ごしています。

悲しい現実には悔しさが…

大阪府・Bさん 50歳代 女

昨年入会したばかりでしたが、残念なことに認知症の父が87歳で昨年秋に亡くなりました。

母が急に入院して、突然の独居になっても頑張っていました。2年が経ち、もう限界になってきた時、お試しのつもりで入居してもらったサービス付き高齢者向け住宅で、1週間後に部屋に備え置きの台所用洗剤を誤飲して重い肺炎になりました。約3ヵ月の闘病の末、力尽きました。

しかし、父はもし認知症でなければ助かって回復していたかもしれません。病院は、認知症の人の治療には消極的です。父は病気になるている事が理解できなかったし、治療にも協力的ではありませんでした。中途半端に助かってしまったのだらうという感じがしました。

すごく悲しい現実でした。認知症の人は治る権利もないという感じでした。悔しいです。

一人暮らしでとても不安

東京都・Cさん 70歳代 女

私は昨年7月にアルツハイマー型認知症と診断されました。8月にアリセプト3mgから始め、年末に5mgにしたところ、身体がこわばってベッドから起きられなくなりました。年末だったので、独断で量を減らしてみましたが、良くなり、中断。

私は10年来、躁うつ病の治療薬を毎食後と寝る前に服用しています。今年に入り、不安なので、5月からメマリー錠5mgを朝1回飲み始めています。躁うつ病と認知症の薬を併用しても大丈夫なのか不安です。

手がガタガタ震え、歩行も不自由になってきました。今は簡単な物忘れ程度なので、現状を維持したいです。一人暮らしの老女なのでとても不安です。



父に感謝

三重県・Dさん 60歳代 女

3月16日、91歳の父が永眠しました。今さら何をどう考えても仕方なく、ああすれば良かった、こうすれば良かったと後悔しきりです。

最後1年半の施設での生活は、皆さんに良くして頂いて、親子ケンカすることなく過ごすことが出来ました。プリンを1個差し入れすると、「うまい、うまい」と90年分の「うまい」を1年半で言い納めていたようです。娘の私を満足させてくれていたようです。最後、飲食できず、体力もなく静かに息を引き取りました。

「家族の会」に支えられ、つどいに参加させて頂き、今までやってこれました。

地方にも初期集中支援チームを

広島県・Eさん 70歳代 男

世界的に認知症への関心が高まる中、国も国家戦略として新たな「新オレンジプラン」が策定された現状をとらえ、介護保険制度、単身高齢者、高齢夫婦世帯対策等、『新認知症時代』対応を本部が重点方針に据えられていることは評価する。

しかし、私達が相談活動の中で、認知症の早期診断を勧める一方、悩める初期段階の介護者に適切な初期集中支援チームを自信を持って紹介することが出来ない。地方に整備されていないことを大変もどかしく感じている。「新オレンジプラン」の目玉でもあるこれらに対応するチームを本気で整備することを強く訴えてほしい。住み慣れた場所、我が家で安心して暮らせる環境作りと、必要な時にタイムリーに介護家族を助けてほしい。

少しショックでした

北海道・Fさん 60歳代 女

90歳の母は脈拍が30台になり、「ペースメーカーの埋め込みが必要です」と医師より診断されました。認知症の母は「身体に機械を入れるのはいやだ。早くお父さんのところに行きたい。私の事は自分で決めます。」とはっきり言い、医師も娘の私も説得できず、母の気持ちを知ることとなりました。

しかし、夕方にグループホームの職員さんが来て、「Aさん、仕事が残って困っています。洗濯物も残っていますよ。早く帰って来て下さい」と言う。「あー、私、仕事残して来たの？ 早く良くして帰らなきゃ…」と。すぐに担当医を呼び、ペースメーカーを入れてもらいました。娘より、お世話になっている職員さんの方が母の事を良く知っていると感じ、少しショックでした。

生きようメッセージに支えられて

大分県・Gさん 70歳代 女

夜中に二人だけで過ごしていると、切ない気持ちになる時があります。「殺すな、死ぬな」の生きようメッセージを見えるところに貼り付けています。

私の切ない気持ちをそういう行動に移したら、子や孫、そのまた孫がどんなに生きにくかるう。

やめよう、子孫のためにやめよう。

※お名前はイニシャルではありません。
年齢は「50歳代」等で表記しています。

お便りお待ちしております！

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル
京都社会福祉会館内〈「家族の会」編集委員会宛〉
FAX.075-811-8188
Eメール office@alzheimers.or.jp

担当は本部電話相談員です

“つどい”は知恵の宝庫

介護初心者の悩みに応える 99

夫が運転をしてくれないと生活できません。
どうしたらいいでしょう。



夫は80歳、アルツハイマー型認知症で要介護1です。
子どもたちは独立し、二人で住んでいます。買い物や医者へ行くにも車がないと不便な田舎です。最近、駐車した場所がわからなくなったり、道に迷ったりすることがあり、運転をしたがらなくなりました。息子たちは心配していますし、医師からも運転はやめるよう言われていますが、私は足が悪く、夫の運転がないとどこへ行くにも不自由です。どうしたらいいでしょう。（相談者：妻 79歳）



医師：認知症の診断を受けた人は運転できないことになりました 今年6月の改正道路交通法では75歳以上の高齢者が免許更新時の検査で認知症の疑いがあると判断された場合は、医師の診断を義務化することになりました。また、一定の交通違反を犯した人も臨時に検査を受け、認知症の疑いがあれば受診が必要になります。近く公布され、2年以内に施行されることが決定しました。命に関わる問題です。もし事故を起こしたら家族が監督責任を問われる可能性もあります。車のない生活に移行しましょう。



介護経験者：運転免許証の自主返納制度の活用を 私の夫も運転ができなくなり、免許証を返納して「運転経歴証明書」をもらいました。これを提示して、路線バスやタクシーの減免などの「免許返納時の特典」を利用しています。車のない生活に不安はありましたが、この特典で車以外の手段が使い易くなりました。特典については、自治体により異なりますので、お住まいの地域を管轄する市役所や警察署に問い合わせると良いですよ。



ケアマネジャー：被害者の立場になったことを想像して決断を 奥様も不便でしょうが、被害者の立場で考えて決断しませんか？ 事故を起こしてしまった

時に、認知症と診断されている場合は、自動車保険（任意保険）の約款にある「免責事項」により、保険金が支払われない可能性もあります。



世話人：病状は進行します。今が決断のときです 不便を感じるでしょうが、ご主人も運転に不安を感じているようですし、いつまでも運転が出来るわけでもありません。今がその時と考え、車を手放すことを奥様自身が決める時期だと思います。息子さんの心配も踏まえて家族で話し合ってみませんか。買い物などは息子さんやご近所の方に協力してもらえるか相談してみてもいいかがですか。



地域包括：奥様自身もサービスを利用しましょう 田舎では本当に交通が不便ですね。地域により異なりますが、NPO法人等の移送サービスや介護タクシーもあります。生活面では、生協等の宅配や移動販売車の利用、NPO法人の買い物サービスもあります。具体的な提案をさせていただきますので、地域包括支援センターにご相談下さい。また、ヘルパーさんに買い物を頼むとか、交通の不便な地域ではデイサービス中に買い物に連れて行ってくれる事業所もあります。奥様も介護保険を申請してサービスを利用しているかがでしょうか？





越野 里美さん（72歳・京都府支部）

今月は京都府支部・本人と家族のつどいに参加されている越野里美さんです。赤ちゃんから90歳の人にボランティアで紙芝居をしてきました。自前の紙芝居と舞台を持って、今なお活動中です。夫の稔さんも、今ではつどいに参加するだけでなく本部の電話相談員として協力をして下さっています。

（編集委員 鈴木和代）

本人登場 No. 122

私らしく
仲間と
ともに

紙芝居との出会い

京都生まれの里美さんはご結婚後、夫の稔さんの転勤で各地を転々とされたそうです。二人の娘さんが早く転居先になじめるよう、ご自宅で「家庭文庫」を始められ、近所の子もたちに絵本の読み聞かせや紙芝居、工作などを40年以上してきました。紙芝居の第一人者に学び、全国で活動をしてきたそうです。

診断を受けた頃

稔さんによると、6年ほど前に食器や台所用品の片付け場所が怪しくなり探し物が多くなったそうです。その1年後にアルツハイマー型認知症との診断を受けました。認知症に理解のある医師に出会うまで紆余曲折がありましたが、今通っている神経内科医院に出会い、ようやく落ち着きました。

「家族の会」との出会い

現在要介護1です。当初通い始めたデイサービスは高齢者対応で、里美さんは不満を感じていました。



越野さんご夫妻

新聞で認知症カフェを知り、これなら良いのではないかと、電話相談したことがきっかけで「家族の会」と出会いました。

今の暮らし

現在は認知症対応通所施設に週2回、機能訓練型半日デイに週2回通っています。毎日の夕飯作りをすることが日課です。食材の買い物は稔さんと一緒にですが、自分の楽しみで食べるおやつは近くのコンビニまで一人で買いに行きます。稔さんが不在でも外出できるようガイドヘルパーを申請中です。



紙芝居をする里美さん

これからも穏やかに暮らしたい

認知症カフェのスタッフから勧められて紙芝居をしたところ好評で、里美さんもみんなの反応が嬉しく、しばらくカフェで紙芝居をしていました。平日昼間の子育てサークルでも月に2回、0～3歳児に紙芝居を上演しています。「これからも紙芝居の活動を続けていきたいと思っています。長年忙しい生活を送ってきたけれど、今が一番ゆっくりした生活を楽しんでいます」。

〈取材を終えて…〉里美さんの紙芝居を観て、じんわり心が落ち着くのを感じました。人の心を動かす活動は、これからも多くの人に感動を与えることと思います。

情報
コーナー

本人交流の場

（詳細は各支部まで）

宮城●8月6日(木) 午前10:00～午後4:00／翼のつどい→泉区南光台市民センター
●8月20日(木) 午前10:00～午後4:00／翼のつどい→泉区南光台市民センター
山形●8月15日(土) 午後1:00～3:00／置賜・本人のつどい→すこやかセンター
●8月21日(金) 午後1:30～3:30／若年性認知症のひと家族のつどい→精神保健福祉センター（小白川庁舎）
埼玉●8月26日(水) 午前11:00～午後1:00／若年性認知症のつどい・大宮→大砂土ふ

れあいの里

新潟●8月8日(土) 午後1:30～4:00／若年性認知症のつどい→新潟市総合福祉会館
富山●8月1日(土) 午後1:30～3:30／てるてるぼうずの会→サンフォルテ
岐阜●8月16日(日) 午前11:00～午後3:30／各務原市のつどい→ニッケかみ野苑
●8月23日(日) 午前11:00～午後2:00／岐阜市のつどい→アルト介護センター長良
滋賀●8月12日(水) 午前10:00～午後2:00／ピアカウンセリング→成人病センター職員会館
鳥取●8月22日(土) 午前11:00～午後3:00／東部につどいの会→コモン・吉方温泉

広島●8月1日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会東部→福山すこやかセンター
●8月8日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会広島→中区地域福祉センター
●8月15日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会北部→三次市十日市コミュニティセンター
●8月22日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会西部→あいプラザ
福岡●8月1日(土) 午前10:00～正午／あまやどりの会→福岡市市民福祉プラザ
大分●8月1日(土) 午後1:30～3:30／若年性認知症のつどい→県社会福祉介護研修センター

リレーエッセー

いまを生きる

「すべては新なり」

すぎわか えりょう
杉若恵亮

日蓮宗 法華寺第三十五世住職



誰しものが迎える、避けられない生けとし生けるもののすべての現象変化をどう受け止めていくべきか、このテーマは早く気付けば気付くほど、それなりの準備は可能かもしれません。しかしその都度様々な現実をつきつけられたその時にそれまでに想定して準備していたことでも行き届いた万全の対応が出来るものではないことも想定に入れておかねばなるまいと思う今日この頃です。

仏教でいう「四苦八苦」の内の根本煩惱としての「四苦」、つまり「生老病死」は絶対迎え、避けられない現象変化であってそこに伴う苦しみ、悩み、不安は誰しものが遅かれ早かれ感受していかなければなりません。そんな事は百も承知とはいえ、真正面に向き合った時におおかたの人が困惑するのではないのでしょうか？ という拙僧も磐石の構えですべての起こり得る現象変化に受けて立てているかと問われれば、まだまだ至らぬ戸惑いの迷走中の迷僧かもしれません。迷僧なりに仏教が説く所の「四苦」、そこから派生する枝分れしていく諸々の「苦」をどう咀嚼していくかを日々の課題としています。小僧時代より経典を学び、行を修めるなか「悟り」とまで至らなくとも「気づき」へのいざ

ないとなる事象に遭遇するたびに過去現在未来の暗雲が払拭されていく感「悦び」とも言えます。「内なる世界」と「外なる宇宙」の関わり方で生涯というものは価値ある有意義なものと思えるのだと思えるのです。何一つ一定でない「外なる世界」に対し、一定であれと願う「内なる世界」も決して一定ではないのです。双方一定ではない事を失念しがちが故に「苦」と位置付けてしまうのではないのでしょうか？ 一定でない事を「悦び」と感得する事であらゆるすべてが「内なる世界」も「外なる世界」も「新しき世界」への期待感となり胸躍らせる事が出来るように思うのです。

「古い」や「病」それらに必ず伴う苦しみと向き合っておられる方々そのケアに携わられている方々の現実から言えば、そんな悠長な心境になれる訳がないと仰るでしょう。がしかし、実は「すべては新」なのです。去年より今年、いや昨日より今日、いや数分前より今、すべては「新しき世界」を求めて「内なる世界」も「外なる世界」も一定ではないのだと捉えてみてはいかがでしょうか。「内なる世界」に新しきを求めようなどないと思われるなら「外なる世界」に「新しき」を求められることをお勧めします。その一步が実は「内なる世界」にも反映し、「すべてが新なり」となるのです。



理事&本部事務局活動・業務日誌

●理事・本部活動●

2015.6

6日★臨時理事会／35周年記念総会、レセプション／7日★支部交流会／14日★杉山◎認知症講座長野会場／17日★会報編集会議／調査研究作業部会／20日★KBSラジオ「ぼんざい人間」／25日★厚労省・社保審介護給付費分科会(東京)／27日～28日★九州・沖縄ブロック会議(熊本)

●文書等発受●

3日、10日、17日、18日、24日【連絡】支部「事務連絡」◎／15日【会報】支部「会員 ぼ〜れぼ」419京都府支部協力◎／9日【後援承諾】フォーラム認知症新時代いきいきと暮らすために(NHK厚生文化事業団)◎／22日【後援承諾】臨床美術学会・大会(同学会)◎／24日【後援承諾】気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー(同実行委員会)◎

事務局

ほっとコーナー



各地で、豪雨・地震・火山噴火などの自然現象での災害が発生していますが、皆様の周辺では被害などはございませんか？

二日間にわたる2015年の総会・支部交流会も終了しました。今年は35周年の記念の年でもあり、多くの方々にお集まりいただき盛会となりました。私は初めて経験する総会のうえ、35周年事業を担当し無我夢中のここ数ヵ月で、ようやく「ほっと」した気持ちになれるようになりました。レセプションでは、

- 2014年度総会員数(個人・団体) 11,985名・団体
- ホームページ総訪問者数のべ117,716件(5月1日～31日)
- 本誌発行部数18,500部

他の支部の方とご一緒いただき「支部間交流」していただけるよう席を決めさせていただきました。会場の形状が縦長であったのと音響がよくなかったので、後部の方は舞台上の進行が分からなかったようで…。後部席になられた方々、すみませんでした。

次の大きな行事は9月の世界アルツハイマーデーです。各支部での取り組みも楽しみに、本部も頑張って事業を進めていきます。みんなで認知症に対する理解を広めていきましょう。

(事務局 廣澤雅子)